

民報 ゆうばり

「公共交通・まちづくり」を考える

ゆうばり再生市民会議10周年記念研修会



◆JR廃線後のバス路線
 ◆住民生活への影響
 ◆再生市民会議でアンケート
 ◆地区で住民意見をまとめる
 ◆国・北海道・夕張市の三者協議に反映
 ◆(三重県でJR名松線を6年半ぶりに復活)
 ◆住民の声を半数的署名・努力と県知事の働き
 ◆最初の『高校魅力化プロジェクト』は

◆夕張市の面積の89%を占める山林資源の活用が大事。
 ◆漢方薬の薬木のほかにも、先進地域では、木質バイオマスやCO2削減に関する事業の取り組みも。
 ◆「交通権」の保障
 ◆政府の保証責任
 ◆交通権とは 憲法25条(生活権) 13条(幸

11月5日、はまなす会館において開催された約60人が参加した、ゆうばり再生市民会議主催の市民研修会「夕張市の公共交通を考える」講演の概要をお伝えします。



島根県・海士町から始まった廃校の危機
 ↓今や東京・大阪から多くの「島留学生」
 ↓廃校の危機克服
 ↓子どもに具体的な将来の目標を持たせることで学習意欲はアップ！
 3割が国立の大学、早稲田・慶応も。

◆夕張再生は「地方創性」政策のもとで大丈夫か？
 (1) 将来の地域像、計画目標を明確にし

内発的發展を
 (4) 地方行政財政
 ↓住民参加の「実践的住民自治」
 ↓長野県栄村の経験
 ◆地方再生の基礎は「集落機能」の復活
 ↓「集落点検・集落計画」のススメ
 (1) 「狭域行政」で

●高知県四万十市西土佐大宮(株)大宮産業
 ↓地域住民参加型株式会社
 ↓商店・給油所、情報発信、住民の交流
 ↓「大宮米」
 ↓「大宮地域振興協議会」
 ↓5部会で暮らし改善
 ●吉賀町(人口6000人程度)
 ↓地域公民館単位で約1000項目を順次集落点検・計画づくり
 ↓検査事項①問題点②その原因③どうしたいか④計画化⑤実施責任
 ↓団体↓小冊子にし各戸配布、アンケート、集落会議、子どもも参加、2〜3年かけて計画づくり、毎年点検、必要な改定と次の1年の計画
 ↓柿木村↓人口対策、所得対策、生活対策
 ↓食料自立と再生可能エネルギーの自給・循環で地域の自立
 ↓7年間で新規受け入れ78世帯
 ↓1人(Uターン)62世帯
 ↓105人、1人16世帯
 ↓26人、1人11世帯
 ↓18・7人。

「まちづくり」の原点は地域住民自治体の中に集落自治を築く
 自分たちで点検・改善計画を

た人口計画・政策
 ↓地域の人口扶養力を考慮、20〜45歳のU・Iターン年齢構成が若返る
 (2) 環境条件づくり
 ↓出産までの医療支援策、子育て、教育の施設とサービス
 ↓地域社会の助け合い
 ↓継続的公的援助
 (3) 産業政策
 ↓企業誘致
 ↓地域資源活用、

「地域力」を育てる
 (2) 集落対策は「地域相互扶助組織」として再興
 ↓収入に応じて負担金も検討
 (3) 住民は「お客

「自治(体)」の中に「集落」自治を築く
 ↓行政の意思決定
 ↓地域づくり(行政が

「自治(体)」の中に「集落」自治を築く
 ↓行政の意思決定
 ↓地域づくり(行政が

「自治(体)」の中に「集落」自治を築く
 ↓行政の意思決定
 ↓地域づくり(行政が

「自治(体)」の中に「集落」自治を築く
 ↓行政の意思決定
 ↓地域づくり(行政が

「自治(体)」の中に「集落」自治を築く
 ↓行政の意思決定
 ↓地域づくり(行政が

年金者組合旅行 登別カルルス温泉へ

年金者組合夕張支部は10月25日から2泊3日の日程で支部主催の旅行を実施しました。

宿泊先は登別のカルルス温泉岩井ホテル。オロフレ峠の山並みを眺望しながらの露天風呂がお勧めとの案内に一同期待を膨らませて送迎バスに乗り込みました。夕張の紅葉はすでにおわっていましたが晴天に恵まれた支笏湖や美笛峠を越え、さらには大滝地区など道中の車窓からの眺めは紅葉の真つ盛りで車内に歓声があがるほどでした。

さんが選挙結果の特徴をお話しする一幕もあり即席の学習会となりました。恒例の宴会は定番カラオケに希望者が次々と続き、時には曲に合わせてステップを踏むダンスサークルの会員や日舞の振り付けで曲に合わせる人が出て、最高の盛り上がりとなりました。戻りの行程は白老の魚卸店、苫小牧の三星菓子店や魚市場など買い物を楽しみながら帰路に付きましました。この旅行で組合に加入をきめた方もありました。

夕食時の歓談では、三日前に終わった総選挙について話題が集中し、「民進党が希望の党へ合流すると、市民と野党共闘を裏切る突然の行動で結局安倍政権を有利にした」と批判が次々に目まぐるしく出され、急遽市議のくまがい桂子



「夕張問題を考え、語る懇親のつどい」開催

10月24日ホテル マウントレースイで、市内在住者森谷たけしさんの呼びかけに賛同して東京、札幌、現地夕張などで関係者が16名つどいました。

1981年10月16日の北炭夕張新鉱の「ガス突出大災害」から36年が経過しました。大災害の翌年に、開鉱10年の同炭鉱の閉山、北炭の会社倒産があいつぎ、最盛期11万人を数えた夕張市がいま8,400人になっています。

全国唯一の財政再生団体となっている夕張が10年を経たいま、夕張について考え、語るつどいをぜひとの呼びかけがあり開催されたものです。



参加者の中には元小笠原貞子参議の秘書酒井さん、元児玉健次衆議の秘書大塚さん、機関紙印刷増山さん、元党道労働部長森元さん、由仁町議大竹さんなどが、当時の闘いについて語りました。「田口さんが元気なとき『ヤマの民報』で交流した数ヶ月後事故に遭遇した」と機関紙に携わった佐々木さんが報告しました。事故前田口さんは小笠原事務所に来て「炭鉱が危ない状況だ」との訴えを大塚さんが聞いていました。また、真谷地炭鉱で働いていた大竹さんは、酒井秘書を通じ当時の田村通産大臣に会って「人間の尊厳」を訴えたと語りました。仲間の救出に尽力した安部さんは現在博物館のガイドを務めているなど多彩な交流になりました。



紙智子「国会かけある記」
参議院議員
紙智子

群を抜く実績の議席の回復へ

あつという間の総選挙。希望の党と言う逆流が生まれるなか、市民と野党の共同は前進したとの思いはありますが、北海道で共産党の議席、島山和也議員の議席を失ったという複雑な思いでいます。安倍政権は六月に通常国会を閉会してから、内閣改造を行った後も野党の臨時国会開催の要求に応えず国会論戦を避けました。そして、いきなり九月二十八日には野党の共同が進むのを恐れて臨時国会を開き衆議院の解散に打って出ました。「森友疑惑」「加計疑惑」などを隠べいし、九条の改憲も農政も

私ともに語ることはありませんでした。私たちは、市民と野党の共同を分断する新たな逆流に屈せず、安倍暴走政治を終わらせるために奮闘し、立憲主義、民主主義を取り戻す貴重な第一歩を築くことができました。

十一月一日に国会が始まり安倍内閣が継続することになりましたが、与党議員からは「(総選挙に勝ったが)信任を受けたと考えるのは早計だ」という声が出るなど、盤石ではありません。

島山前議員が取り組んだTPP(環太平洋連携協定)の批准を許さないたたかい、農協解体など安倍官邸農政と対決するたたかいは、大きな財産を築きました。JR北海道の廃線問題、泊原発、豪雨被害など、道民の切実な願いを実現する活動も群を抜きました。

島山前議員は「いつでも国会に戻れる活動をする」と言われましたが、安倍暴走政治をストップさせ、北海道の議席をいち早く回復するために頑張る決意です。